なり。りやうけねんぐ、ならびにくばうの御くじとうは、せんれいにまかせてそのさたあるべし。しゝさかいと、たのつぼづけはべつしにこれあり。せんれいにまかせてそのさたあるべし。ゆめ〳〵たのさまたげあるべからず。仍ごにちのために、ゆづりじやうくだんのごとし。

應永十八年十月一日　　あまめうほん　在判

（天野彦次郎の實名が慶景なることは、應永廿年五月四日の條に見ゆ。）

十月廿七日。幕府、山城勸修寺に、同寺領江沼郡郡家莊を安堵せしむ。

七五四

【勸修寺文書】（端書裏）足利家公方義持公管領畠山尾張守滿家入道々端之判物　山城

寫

勸修寺宮廳申、加賀國郡家庄内沽却并質券狀等事、解狀具書如ㇾ此。子細見ㇾ狀。於ㇾ當所ㇾ者、爲ㇾ一圓進止地ㇾ之處、或稱ㇾ一代之寺務沽却ㇾ、或爲ㇾ一旦領所之身ㇾ號ㇾ入ㇾ置質券ㇾ、違亂之間寺用失墜云々。太不ㇾ可ㇾ然。所詮任ㇾ度々支證并去應永六年御教書之旨、止ㇾ方々競望ㇾ、自今以後全ㇾ雜掌所務ㇾ、可ㇾ被ㇾ專ㇾ興隆ㇾ之由、所ㇾ被ㇾ仰下ㇾ也。仍執達如ㇾ件。

應永十八年十月廿七日　　畠山尾張守源滿家法名道端　沙彌　在判

（斯波滿種）左衞門佐入道殿

閏十月十四日。足利義持、山城石清水八幡宮別當宋清に命じて、その末社能美郡多太社知行乃美・長野・一針莊に別人を補任せしむ。

七五五

【菊大路文書】　山城

石清水八幡宮寺末社加賀國多田（太）社神主狼藉事、訴狀具書遣ㇾ之。乍ㇾ令ㇾ知行乃美・長野・一針三ヶ庄内寄附之地ㇾ、不ㇾ及ㇾ造營沙汰ㇾ、結句依ㇾ構ㇾ隱田以下奸謀ㇾ、糺明之處、押ㇾ寄社家代官在所ㇾ致ㇾ濫妨ㇾ云々。太不ㇾ可ㇾ然。所詮於ㇾ彼地等ㇾ者補ㇾ任別人ㇾ、至ㇾ隱置所々ㇾ者令ㇾ直務ㇾ、可ㇾ全ㇾ本社神用ㇾ之狀如ㇾ件。

應永十八年潤十月十四日　　在（足利義持）判

當宮寺檢校法印（善法寺宋清）御房

應永十九年　壬辰　紀元二〇七二

五月四日。足利義持、山城臨川寺領加賀郡大野莊を守護使不入の地を爲し、莊内居住人の守護被官たるを禁ず。

七五六

【天龍寺文書】　山城

臨川寺領加賀國大野庄課役・檢斷等并庄内輩可ㇾ停ㇾ止守護被官事

右當庄依嚴重寺領異ㇾ于他ㇾ、爲ㇾ守護使不入之地ㇾ、役夫工米以下諸役先々免除之條、官符宣并御判等明鏡也。而近年猥守護家人等寄ㇾ綺於檢斷ㇾ、致ㇾ追捕狼藉ㇾ、剩責ㇾ取巨多米錢ㇾ云々。庄家荒廢之基、其煩絕ㇾ常篇ㇾ者乎。凡當寺領違亂之輩、可ㇾ分ㇾ附所帶於寺家之由、其沙汰先畢。況如ㇾ此狼藉不ㇾ可ㇾ誡（不脫カ）。於ㇾ責取米錢ㇾ者、任ㇾ注文ㇾ可ㇾ返ㇾ辨之ㇾ、至ㇾ狼藉人ㇾ者、可ㇾ處ㇾ所當罪科ㇾ之旨所ㇾ仰ㇾ守護人ㇾ也。所詮檢斷以下事、向後爲ㇾ寺家之計ㇾ、止ㇾ守護使入部ㇾ、可ㇾ全ㇾ所務之狀下知如ㇾ件。

應永十九年五月四日

內大臣（足利義持）源朝臣　在判

○

七五七

【臨川寺文書】（端裏書）官領施行、細川右京兆　山城

臨川寺雜掌申加賀國大野庄課役・檢斷等并庄内輩可ㇾ停ㇾ止守護被官事、早任ㇾ去四日御下知ㇾ、於ㇾ所ㇾ責取米錢ㇾ者返ㇾ辨之ㇾ、至ㇾ狼藉人ㇾ者可ㇾ被ㇾ處ㇾ所當罪科ㇾ、所詮當庄檢斷以下、向後爲ㇾ寺家之進止ㇾ、々使者之入部ㇾ、可ㇾ被ㇾ全ㇾ所務之由所ㇾ被ㇾ仰下ㇾ也。仍執達如ㇾ件。

應永十九年五月十二日　　沙彌（細川滿元）　在判

左衞門佐（斯波滿種）入道殿

○

七五八

【臨川寺文書】（端裏書）左衞門佐殿奉書、自ㇾ公方ㇾ被ㇾ仰出ㇾ進ㇾ上之ㇾ

臨川寺領加賀國大野庄事、爲ㇾ守護不入之地ㇾ之處、被管人等寄ㇾ事於左右ㇾ、責ㇾ取料足ㇾ云々。注文遣之　太不ㇾ可ㇾ然。至ㇾ料足ㇾ者返ㇾ辨之ㇾ、於ㇾ向後ㇾ者固可ㇾ停ㇾ止亂入ㇾ之旨、可ㇾ令ㇾ相觸ㇾ之狀如ㇾ件。

應永十九年五月三日（十三カ）　　在（斯波滿種）判